

# 平成 28 年度 第 4 回大阪地方会 活動報告

平成 29 年 1 月 14 日 (土)

於：府中病院 地下 1 階 セミナーホール

平成 29 年 1 月 14 日 (土) は大寒波襲来との予報でしたが、会場はほぼ満員の参加者でむしろこの寒さを吹き飛ばす熱気さえ感じられました。また遠くは九州福岡からもお越しいただき本当にありがとうございました。今回は、会員 23 名、非会員 70 名の合計 93 名のと、今年度一番の参加者数になりました。ご参加いただきました皆様、世話人一同、感謝申し上げます。

初めに開催病院である府中病院の田口博之管理部長様より開会のお言葉をいただきました。5 年前に当研究会が発足し、記念すべき第 1 回全国大会が開催されたのが、今回の会場である府中病院でした。それから数年、診療報酬改定の度に加算点数が上がり、評価を得ることが出来たのは医師事務作業補助者の皆様の努力の成果です。そしてこのような研究会活動こそが、その成果に繋がるものだと思うので、今後もこのような勉強の機会を大切に、ますます活躍して欲しいと激励いただきました。



続いて、『主治医意見書を適切に作成するための留意点』と題して、社会医療法人生長会介護事業部長の城山秀雄先生にご講演いただきました。社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員でもあられる城山先生は、病院の総合管理を行う傍ら、現在は大阪府堺市の介護認定審査業務にも携わっておられます。城山先生が入職された当時は、社会福祉士という国家資格は存在せず、病院内で専門職としての位置づけはなかったとのことでした。院内では日本語、英語、ドイツ語、さらに専門用語が飛び交い、初めて聞いた時は何を話



しているか全くわからなかったと体験談をお話してくださいました。医療の現場は忙しく、質問するために話しかけても『まだ何か話はあるの?!』という対応をされ、専門職ばかりの病院内で、なかなか自分の立場が築けず、ご苦労されたとのことでした。そのような中、自らが積極的に周りに関わることで周囲に認知され、病院内での立場も確立することができた。そして、多くの仲間の活

動が、現在の社会福祉士という国家資格に繋がったとのことでした。他の医療専門職と積極的にコミュニケーションをとることは、多くの情報を得ることができ、主治医意見書を書くのにも役立つため、医師事務作業補助者の皆さんも頑張ってもらいたいとエールをいただきました。確かに私たちも今では理解できることも、入職時は理解できないことが多く、先輩や医師、看護師に迷惑をかけた記憶があります。日々の他職種とのコミュニケーションの積み重ねが、私たちのことをより多くの医療スタッフに認知してもらうこととなり、チーム医療に欠かせない存在に繋がっていくことと思います。

そして恒例のグループディスカッションですが、回を重ねるごとに参加者の皆様も慣れてこられ、活発な意見交換が行われ、最後の発表も内容の濃いものとなっていました。



最後に、大阪府支部の西川支部長より、2011年6月に研究会が発足して、今年で7年目になります。研究会では今後も医師事務作業補助という職種の確立に向けて、一步一步前に進めることが出来るように最大限の努力をしていきたいと思っています。そして、資格化のためには会員数が大変重要となるので、医師事務作業補助者自身のために、当研究会の趣旨や活動にご賛同いただける方に、一人でも多く会員になっていただきたいとの思いがかたられました。

今後も参加者の皆様の更なる成長を目指して活動を行ってまいりますので、ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、今回の地方会にご参加いただきました皆様、また準備段階よりご協力いただきました全ての皆様方に、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

NPO 日本医師事務作業補助研究会  
大阪府支部 副支部長 事務局  
府中病院 堀田 恵